

広島大学法科大学院

履修免除試験

[商法]

2024年3月3日(日)

13:30~14:30

注意事項

- 1 ページ数は、表紙を除いて、2ページです。
- 2 問題は3問、解答用紙は2枚、下書用紙は1枚です。解答用紙の記載を確認し、所定の解答用紙を使用してください。
- 3 解答は所定の解答用紙に横書きで書いてください。罫線外及び裏面を使用してはいけません。なお、使用する筆記用具の指定はありません。
- 4 解答用紙の所定の箇所には、受験番号のみを記入してください。氏名を書いてはいけません。
- 5 配布した解答用紙は持ち出してはいけません。
- 6 試験時間の途中で退室することはできません。
- 7 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

[商法] (100点)

第1問

株主総会に関する次の1から5までの各記述のうち、正しいものはどれか、2つ答えなさい。(10点)

1. 大会社で公開会社である取締役会設置会社は、書面に代えて電磁的方法により招集通知を発することを決定する際に、個別の株主の承諾を得る必要はない。
2. 公開会社でない取締役会設置会社においては、取締役の解任が株主総会の目的である事項となっていない場合でも、株主は、その株主総会の場において、取締役の解任を総会の目的に追加することを請求することができる。
3. 株式会社は、法令に別段の定めのない限り、株主総会の決議の成立要件について、定足数の要件を排除し、出席株主の有する議決権総数の過半数の賛成による旨を定款に定めることができる。
4. 単元株式数について定めのある株式会社では、単元未満株主は、定款に特段の定めのある場合に限り、議決権の行使ができない。
5. 最高裁の判例の趣旨によれば、正当な招集権者による有効な招集手続を欠く株主総会であっても、株主全員が当該総会の開催に同意し、かつ出席している場合には、当該総会が株主総会の権限に属する事項につき決議したとき、当該決議は有効に成立する。

第2問

株主総会決議の瑕疵に関する次の1から5までの各記述のうち、誤っているものはどれか、2つ答えなさい。(10点)

1. 株主総会決議取消しの訴えに係る請求を認容する判決が確定したときには、当該決議は、決議の時点に遡って無効となる。
2. 株主総会決議無効確認の訴えは、決議の内容が法令または定款に違反する場合に、提起することができる。
3. 株主総会で解任された取締役は、当該株主総会の決議の方法が法令に違反するときであっても、もはや取締役ではないから、当該株主総会決議の取消しの訴えを提起することはできない。
4. 株主総会決議無効確認の訴えに係る請求を認容する確定判決は、第三者に対しても、その効力を有する。
5. 株主総会の決議について特別の利害関係を有する者が議決権を行使したことによって、著しく不当な決議がされた場合、株主は、当該決議の取消しを求める訴えを提起することができる。

第3問

次の事実を読んで、後記の設問に答えなさい。(80点)

1. 英語塾を営んでいる甲株式会社(以下「甲社」という。)は、近年、資金繰りが悪化し、令和5年3月には、翌月の決済資金を確保する目処がつかなくなっていた。しかし、甲社の代表取締役であるAは、その事実を隠したうえで新春入学キャンペーンを実施し、その結果、Xを含む複数の者が、甲社との間で入塾の契約を締結し、入学金と授業料の前払金を支払うこととなった。
2. 令和5年4月になって甲社が経営破綻したため、Xは、支払った入学金や前払金の大部分を回収することができなくなった。
3. 甲社は取締役会設置会社であったが、Aは取締役会を開催したことがなく、独断専行によって甲社を営んでいた。

甲社の経理担当取締役であるBは、甲社の経営状態を掌握しており、令和5年3月の時点で、翌月の資金繰りの目処がつかないことをAに報告していた。しかし、Bは、Aが新春入学キャンペーンを実施することについて、特に異議を唱えなかった。

甲社の取締役であるCは、Aの妻であり、Aから言われるままに甲社の取締役に名目的に就任することを承諾していた。しかし、Cは、専業主婦であって甲社の経営に全く関与しなかったから、経営破綻の前に甲社の経営状態を知ることはなかった。

[設問]

A、B及びCのXに対する会社法上の損害賠償責任について、それぞれ論じなさい。

広島大学法科大学院

履修免除試験

[民事訴訟法]

2024年3月3日(日)

14:50~15:50

注意事項

- 1 ページ数は、表紙を除いて、1ページです。
- 2 問題は1問、解答用紙は2枚、下書用紙は1枚です。解答用紙の記載を確認し、所定の解答用紙を使用してください。
- 3 解答は所定の解答用紙に横書きで書いてください。罫線外及び裏面を使用してはいけません。なお、使用する筆記用具の指定はありません。
- 4 解答用紙の所定の箇所には、受験番号のみを記入してください。氏名を書いてはいけません。
- 5 配布した解答用紙は持ち出してはいけません。
- 6 試験時間の途中で退室することはできません。
- 7 試験終了後、問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

[民事訴訟法] (100点)

- (1) 地方裁判所を第一審とする訴訟の開始から判決の確定までの基本的な手続の流れについて、根拠条文およびその手続を行う目的に触れつつ説明しなさい。なお、判決によらない訴訟の終了について触れる必要はない。
- (2) 双方審尋主義とは何か、簡潔に説明しなさい。
- (3) 裁判上の自白の成立要件および効果について、民訴法上の根拠条文や妥当根拠に触れつつ説明しなさい。なお、擬制自白について論じる必要はない。
- (4) 甲土地の所有権がXにあることを確認するXY間の前訴確定判決がある場合において、Yが甲土地についての所有権の確認を求めてXを相手に後訴を提起したとする。このような後訴に対して、前訴確定判決の効力はどのように作用するか、説明しなさい。
- (5) 重複起訴の禁止とは何か、民訴法上の根拠条文や制度趣旨に触れつつ簡潔に説明しなさい。
- (6) 共同訴訟人間での証拠共通の原則とは何か、民訴法上の根拠条文や制度趣旨に触れつつ簡潔に説明しなさい。